

つどい

第 437 号
2025.3.1発行・豊中歴史同好会
責任者 小川 滋古代の志摩国―「志摩国神亀六年輸庸帳断簡」
を中心に―(上)
馬見古墳群のお花畑を歩く
荊木 美行
加藤 豊子

古代の志摩国

―「志摩国神亀六年輸庸帳断簡」を中心に―(上)
皇學館大学研究開発推進センター教授 荊木 美行

はじめに―志摩国とは―

ただいまご紹介にあずかりました皇學館大学研究開発推進センター史料編纂所の荊木です。昨年の十二月例会以来の登壇になります。よろしくお願いします。

本日は、古代日本に六十餘存在した国のなかで、きわめて特殊な存在だった志摩国についてお話ししようと考えておりますが、はじめに同国の概要を申し上げておきたいと思ひます。

律令制下では、全国に国が置かれ、国はさらに郡、郡は里(のちに郷)に分けられていました。志摩国も当時六十ほど存在した国の一つで、現在の三重県鳥羽市と志摩市及びその周辺の島嶼からなり、一部度会郡南伊勢町や大紀町、さらには北牟婁郡紀北町の町域もふくんでいたようです(図1)。

隣接する伊勢国との国境は天平勝宝五年(七五三)に確定しましたが(『続日本紀』天平宝字三年十月条)、以後も変動があつたようである(こうした国境の変化については、大西源一「志摩国疆域沿革考」『歴史地理』一九一一・西川順土「志摩国の成立」鳥羽市史編さん室編『鳥羽市史』上巻(鳥羽市、平成三年三月一一七―一八頁、などを参照されたい)。

志摩国の南限ははっきりしませんが、北限については古くは現在の伊勢市二見町附近まで志摩国の範囲だった可能性がありま

す。

あとでもふれますが、輸庸帳には粟嶋神かんべの神戸かんべというものが出てまいります。この「粟嶋」の「粟」がいつしか省略されて単に「シマ」と呼ばれるようになるのだと思うのですが、伊勢市二見町松下には皇大神宮摂社の粟皇子神社(図2)や、おなじく